

## ＜2013年 農林水産研究成果10大トピックス TOPIC9＞

農林水産技術会議事務局

## ＜タイトル＞

高設イチゴ栽培を省力化する「無育苗栽培方法」を確立  
－育苗期間の大幅な短縮と育苗労力の軽減を実現－

## ＜当該研究成果のポイント＞

イチゴ栽培を革新的に省力化できる「無育苗栽培方法」を開発した。高設ベッド栽培による促成イチゴ作型では、収穫作業と育苗作業が重なることから、その省力化が大きな課題であった。

本栽培法は、収穫が終わった株をそのまま残し、その株から発生したランナー子株を次作の苗として直接培地に植え付けて生産株とする。本技術により、慣行では1年間を要していた育苗期間を、3ヶ月に短縮することが可能となり、育苗にかかる労力を大幅に減らすことができる。

## ＜期待される効果・今後の展開など＞

育苗にかかる期間を短縮することが可能になったため、育苗にかかる作業時間、育苗経費を大幅に削減することができ、経営の安定化が期待される。

また、今後、新規就農者等の育苗に不慣れな生産者や、労働力の確保が難しい生産者への導入が期待される。

平成25年度の導入面積は60aであり、次年度は島根県内の高設ベッド栽培による促成作型の約2割にあたる1haでの普及が見込まれている。

## ＜研究所名＞

島根県農業技術センター

## ＜担当者名＞

島根県農業技術センター

栽培研究部 専門研究員 金森健一 TEL:0853-22-6993

## ＜連絡先＞

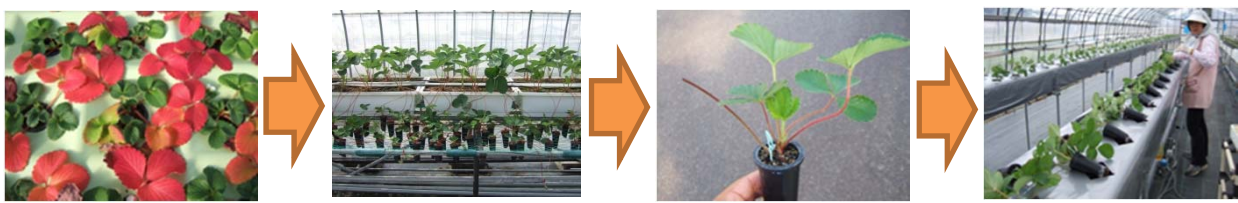
島根県農業技術センター

総務企画部 TEL:0853-22-6698

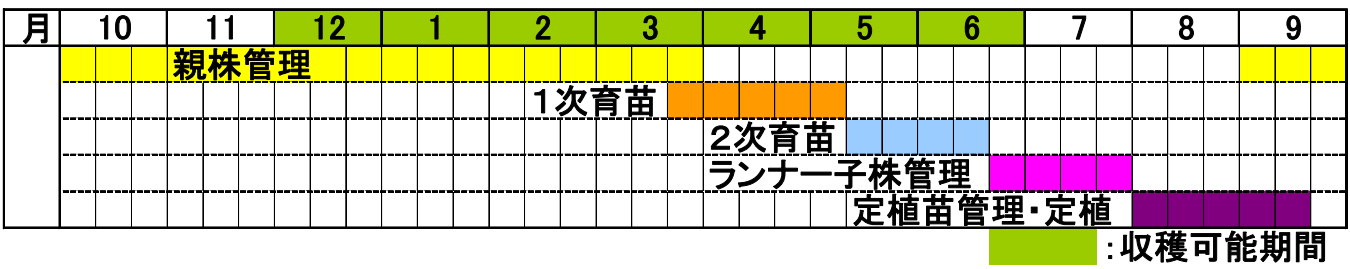
# 高設イチゴ栽培を省力化する「無育苗栽培方法」を確立

・収穫株をそのまま高設ベッド上に残し、株から発生したランナー子株を次作の生産株として利用。

## 【慣行栽培】

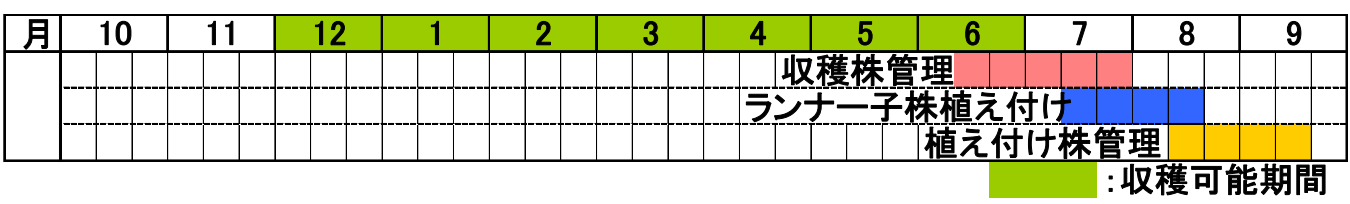


親株管理                      育苗                      定植苗管理                      定植



- ・育苗期間が1年から3ヶ月に大幅短縮！
- ・育苗作業時間は半減、育苗経費は70%減少！

## 【無育苗栽培】



収穫株管理(台刈り)                      ランナー子株の植え付け                      植え付け株管理